

令和8年度第2回大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会 議事要旨

1 日 時：令和8年8月6日（木）14：00～15：30

2 場 所：大阪歴史博物館 4階 第1研修室

3 出席者：

【委 員】栗原委員、島委員、高瀬委員、谷村委員、村田委員

【大阪市】経済戦略局 中野文化部長、平野博物館支援担当課長、水谷博物館支援担当課長代理 他

4 議 題：

（1）地方独立行政法人大阪市博物館機構の令和7事業年度の業務実績に関する評価結果（案）について

5 議事要旨：

（1）地方独立行政法人大阪市博物館機構の令和7事業年度の業務実績に関する評価結果（案）について

大阪市から説明を行った後、令和7事業年度の業務実績に関する評価結果（案）について質疑・審議が行われ、評価委員から意見の申述をいただいた。

〔主な意見〕

- ・ 他の美術館では夜間に開館しても思うように来館者を獲得できていない。恒常的に実施するのは難しいのではないかな。
- ・ 夜間の開館には照明の問題もあり、美術館だけ開館しておけばよいというものではないので、エリアとして取り組むと良い。
- ・ 歴史博物館の入館者数が、大阪城天守閣の入館者数と比べて非常に少ない。歴史博物館は、大阪の歴史に関して学ぶことができ、海外から来られた方に勧めることができるコンテンツを持っているのだから、しっかり周知していくべきではないか。外から見て博物館であることがわかりにくいのも一因ではないか。
- ・ 今年度以降、万博のレガシーに関する事業をどういった場面で行うのが大事である。例えば、ATC やUSJ で行われる万博メモリアルイベントには、普段美術館・博物館に縁のない人たちが集まってくると思うので、是非こういう機会にPRに取り組んでほしい。
- ・ 学芸員が前面に出て、インスタグラム等を通して、館を広く知ってもらうなど、ファンが育っていくように、将来の発展のために学芸員と一緒に取り組んでいくと良い。
- ・ （国際的な連携・取組みについては）これにとどまることなく、博物館の国際会議に向けて頑張ってもらいたい。海外の知見を取り入れるのが大事である。予算が厳しい中でも、館長だけでなく、若い人に行ってもらう機会を作れると良い。

- ・ 多様な来館者像をもう少し広げられないか。収益だけでなく、余力があるうちに考えた方がよい。大阪は恵まれているので、地独として新しいことを次々始めていくべき。地域の人々をいかにサポートできるかや、この町のことを知りたいと思ってきた人（観光客）にどう伝えていくかをもう少し考えてほしい。
- ・ 篤志家からの寄附を集めるための取組みも重要である。
- ・ カフェやミュージアムショップについては、売上金額等の数値を経年的に把握していないと評価が難しい。ユニークベニユーの収入が全収入に占める割合は大きくないので、ユニークベニユーに関する取組みは「収入の確保」とは別の面で評価した方がよいのではないか。
- ・ 計画は定性的な内容であるので、定量的な指標を参考資料として確認し、総合的に評価をしたらよいのではないか。
- ・ DX やハラスメントといった技術的な研修が多いが、「博物館とは何か」「各館がどういう意味をもっているのか」といったことを考える研修が必要ではないか。
- ・ SDGs に関する取組みはもう少し頑張ってもらいたい。企業が運営している博物館は SDGs に積極的に取り組んでいるので参考にしてみてもどうか。
- ・ 次の中期目標・中期計画に向けては、大阪らしさにこだわる文言を入れてみてはどうか。
- ・ 資料 2 の「大阪市：全体評価（年度実績評価）」に記載されている「ガバナンスを効かせた組織運営については、中長期的視点も踏まえてさらなる取組が必要である。」という文言は抽象的なので、表現を工夫したほうが良い。
- ・ 中長期的課題として大災害に備えた防災ネットワークについてしっかり考えた方がよい。

6 会議資料

資料 1 令和 7 事業年度の業務実績に関する中・小項目評価（案）

資料 2 達成度評価シート（令和 7 事業年度 実績評価）（案）